

山梨県スポーツ指導者協議会会報

第四号

巻頭言

山梨県スポーツ指導者協会会長

一木昭男



文部大臣認定のスポ

ーツ指導者制度が発足して六年、新制度の認定を受けた二六競技は加盟競技の三分の二程

度に相当する。残り十四競技は早急に認定を受ける準備が進められている。今後五年で全競技が認定を受けられると思う。更に十年後はすべて公認スポーツ指導者になると予想される。

この制度に対して資格研修の内容が多すぎると言う声を聞く。スポーツの指導は医者が患者を診察すると同じ様に、いろいろの要望の違った人間への対応なのである。そのためにはまだ不十分な学習領域も沢山あるので、自分の専門競技の知識や技術だけでなく、スポーツ医学・生理学・心理学・

社会学・経営学・指導論・地域におけるスポーツ行政に至る多くの知識を身につけ、社会に貢献するのだという意欲を持って欲しい。

公認スポーツ指導者の活動の場の一つには、指導者自身が積極的に他のスポーツ活動へ参加し、協力することである。他の指導者の指導技術を身につけたり、参加者との人間関係をつくるにもよい機会である。

二つには、スポーツ行政担当の教育委員会や体育協会に活動のお願いをしたいということがある。社会体育の活動は単一種目だけではなく多種目の指導者を必要としている。これにスポーツ指導者の仲間で協力することである。

文部省の体育局では、将来公共の体育施設やスポーツ大会の役員には公認スポーツ指導者を位置づけたいと提言している。これを受けて、本県も地区別指導者協議会の組織づくりをめざしている。一市町村に指

導者がいない時は、他の市町村の指導者に協力してもらう。これによって地域のスポーツの発展や指導者協議会の連携を密にすることができると期待している。

社会体育の先進国イギリスやドイツの地域スポーツの拠点がスポーツクラブである。これと同じ様な組織が昨年発足したJリーグのサッカーである。単にサッカーのクラブ作りだけでなく、地域のスポーツを包括して多種目のスポーツ普及発展をめざしている。これが欧州形のスポーツクラブ組織なのである。このクラブには子供から高齢者や、初心者から専門家まで、いろいろなニーズの人たちが参加している。これを指導する役割を担うのがスポーツ指導者の皆さんなのである。多くのニーズに対応するのは大変難しいこともあると思うが、これを取り上げることが大切である。

最後に、イギリスを訪ねたとき、陸上競技大会で、健常者と身障者がいっしょに競技をしている姿を見たとき、これが本当の社会体育だと実感した。早く日本でもこれを実現するために、スポーツ指導者の協力をお願いしたい。

関東ブロック会議 に出席して

土屋 金蔵

平成五年度第一回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議は、七月三日(土)四日(日)の二日間、埼玉県飯能市飯能プリンスホテルで開催された。

この会議は平成四年度に決定された運営規則に従って二巡目となることから、新しい形で実施され、会議場も口の字形で全員が顔を合わせて協議に参加できるように設営された。

会議は開会行事のあと、四月二十三日に行われた全国幹事会で役員が改選され、共通テーマは「指導者制度の充実」になったことが報告された。

続いて、菅野指導育成課長から「公認スポーツ指導者制度は六十三年から五年間スムーズに進められて来たが、一応枠組ができた段階であり、一通り揃ったところであるので、まだ完璧でない。色々な指示・助言をいただきながら、この制度の整備を図っていきたい」とあいさつがあり、平成五年度の事業形態について、十六種類五十二頁の資料をもとに、質疑応答を含めて説明

が行われ、研究協議へ入った。

事例発表は市町村公認スポーツ指導者組織整備事業として取り組んでいる、飯能市指導者協議会から、コーチャー制度導入までの経過と活動状況が報告された。

さて、今回組織・制度の充実に関する問題点として、少年スポーツ指導者とスポーツプログラマーが取りあげられた。

少年スポーツ指導者は競技別の指導者ではなくて、少年層の健全育成を目的とした資格で、少年達のスポーツを指導している人なら、だれでも取れる仕組になっているが、実質的にはスポーツ少年団の登録指導者が九割位を占めると予測されている。

したがって、スポーツ少年団協議会とスポーツ指導者協議会との二重在籍が考えられる。(都道府県体育協会における指導者協議会の位置づけ図参照)

また、スポーツプログラマー一種は競技別ではないが、地域スポーツ指導者のカテゴリーに入り、主として地域の公的施設において、各年齢層に対し適切なスポーツ活動ができるよう、相談及び指導助言を行う指導者であるが、過去、日本体育施設協会が養成した人達の協議会もすでに活動しているの、どのように組織整備を図るか研

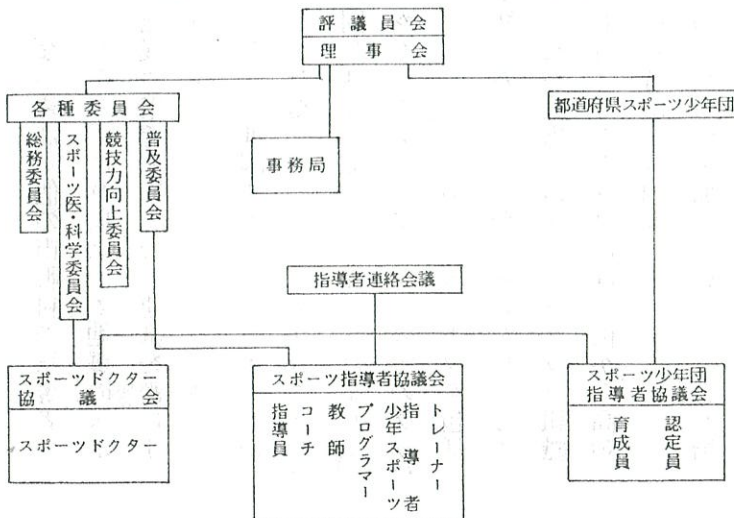
究課題である。

原則的には日本体育協会公認スポーツ指導者制度の枠組の中で養成されているので組織形態としては、当然中に入るようになるが、どのような形で入るか、これからの問題である。

この他、養成・移行講習会、行政面で体育指導員に有資格者を充ること、資格を取っても異動のために施設から居なくなってしまうこと、競技団体と協議会との関係などに問題点を上げられたが、今後継続審議し、組織化・制度の充実を図ることとした。

〈都道府県体育協会における指導者協議会の位置づけ〉

都道府県体育協会内機構図 (参考例)



平成五年度公認スポーツ 指導者海外研修に

参加して

B級コーチ（バレーボール）

山田 泰男

平成五年度公認スポーツ指導者海外研修団の一員として、イギリス・ノルウェー・ギリシアの三か国を訪問した。この研修に際し、山梨県体育協会の温かいご指導のもと、実り多い研修が出来たことを感謝したいと思う。

以下、主な訪問国であるイギリス、ノルウェーについて報告させていただく。

イギリス

近代スポーツ発祥の国であるイギリスは、スポーツを文化としてとらえていると思う。スポーツカウンシルを中心としてのその体育行政により、「スポーツ・フォー・オール」の精神が国民の中に着実に根づいている感を受けた。

我々の滞在先であるノッチンガム州のナショナル・ウオーターズスポーツセンターの規模は莫大なもので、直線二千mのボートコースをはじめ人工のカヌースラロームコース等を有し、年間を通してナショナルチ

ーム及び一般の人々がそれぞれの目的に応じて利用しており、また他のスポーツセンターにおいても早朝から夜遅くまで、気軽に且つ安全に利用出来るように工夫されている。また、これらの施設の中には、必ずレストラン・バー等も常設されており、スポーツを通して地域の人々のコミュニケーションの場として活用されている状況は、スポーツそのものが人々の日常生活の中の一部として溶け込んでいるように思われる。

ノルウェー

ノルウェーのメインスポーツは何と言っても冬季スポーツだと思う。国土の八〇％は山岳地帯という地理的条件を十分に活用して、国内のいたる所にノルディックコースが設置されており、市民は土日はもちろん平日でも夕食後家族と共にスキーを楽しんでおり、また国民は一人に一台は必ずスキーを所持しているとのこと。スキーというスポーツが国民の中に浸透しており、ノルウェーの冬季スポーツのレベルの高さがうなずけた。

ノルウェーのスポーツはスポーツクラブが基本となっており、その活動のほとんどがボランティアで行われている。また幅広い人間形成を目的としたスポーツを教える

ために、十二歳までは競技スポーツはさせないそうである。小学生のうちから勝負にこだわり、必ずしも子供たちの健全な心身の発育を促していない日本の現状を見たとき、我々スポーツ指導者も一考を要するのではないかと思われる。

一九九四年の冬季オリンピックの開催地であるリレハンメルを見学した。環境オリピックとも言われる今回のオリンピックは、自然を破壊することを極力おさえ、自然との調和の中に素晴らしい施設が建設されていた。この精神は今後永遠に受け継がれて行くことを願いたい。

おわりに

今回の海外研修での一番の驚きは、イギリスもノルウェーも、スポーツが人々の生活のなかに、ごく自然な形で浸透しているということである。わが日本を考えた時、まだまだこの域には十分達していないと思われる。生涯体育が提唱されている昨今、我々体育指導者の任務は非常に大切だと思う。今後はこの研修の中から得たものを十分生かし、スポーツ振興のために最大の努力をしていきたいと思う。

バルセロナ オリンピック を視察して

藤原整形外科(日本協スポーツドクター)

藤原 篤

バルセロナオリンピックに日本体育協会より派遣され、その時の話をスライドを交えて、平成五年五月三十日に講演させていだきました。それをすべてこの紙面で紹介することは不可能と思われるので、特に紹介したいことを述べたいと思います。

一つは、バルセロナでの日本選手の活躍です。技術面だけでなく、医・科学的なアプローチへの理解が徐々にではあるが、なされてきた気がします。医・科学的アプローチにより、トレーニング方法・栄養面・精神面などの質の向上が計られ、その成果が徐々に出てきたのだと思います。

もう一つは、「ケガ(急性)や障害(慢性のケガ)」の適切な治療と予防が欧米各国の選手が優れていることは、ソウルオリンピックに派遣された際にも私が感じていたことですが、日本選手も少し上手になったということです。金メダリストの柔道の古賀選手などの「ケガ」の際にも、初期治療

(RICE)の効果が多大な要素となりました。「RICE」の重要性を、本人・指導者が認識し、「勝利への最短距離」であることをハイレベルの選手が教えてくれたことでした。

平成八年にアトランタへ行けることを望んでベンを置きます。

「気」を生かした スポーツ指導を

ニューソート気功代表

相沢 功

「いかに選手のやる気を育てるか」指導者にとって最も大切なことであり、難しいことである。現役時代の私のバスケットボール指導法は「俺についてこい」式の、今思うとゾッとする程、不合理で押しつけの強いものであった。幸い素直で意欲的な生徒に恵まれ、それなりの成果を上げることが出来たが、休養もとらず、マイナス感覚の指導は次第に私自身の心と身体を苛み、ついには退職せざるを得なかった。

しかし、退職後四年たった現在、あれ程苦しんだ健康を取り戻したばかりでなく、

考えてもいなかった能力が現われ、考え方も生き方もすっかり変わり変わり、人間の尊さ、素晴らしさを改めて実感し、それを人々に伝えさせていただいている。それは無限に広がる大宇宙のエネルギー「気」、その気は人間の中を駆け巡っていることはもちろん、万物の根源である気の原理を学び、実践し体感したからである。

最近、「気」ブームにより気の方が認められつつあるが、まだ遍見も強く、マスコミは「不思議」とか「神秘」とかいった言葉で気は超能力の一種で特別な人だけが出せるかのような印象を与えている。しかし気は誰でも出せるもの、使えるものなのである。

気の本質を知り、人間を知り、宇宙エネルギーとの一体感、自然体を体得することにより、人は必然的に自分の持つ能力を更に高められるものなのである。二十一世紀は「気の時代」と言われる。皆さんも是非、真剣に取り組み、選手づくり、人間づくりに生かしていただきたいと願うものである。

山梨県スポーツ指導者 連絡会議（研修会） に参加して

C級スポーツ指導員（バスケットボール）

高津 正

平成五年五月三十日（日）、県立勤労青年センターで開催された、「山梨県スポーツ指導者連絡会議（研修会）」に初めて参加した。

平成四年十月、長期にわたる講習会の末、取得した「C級スポーツ指導員」の資格も、日頃のスポーツ活動に決して生かしているとは言えない私にとって、この研修会は、講師及び参加者の方が、全て経験豊かな指導歴のもと、県内外で活躍されている方々で、とてもよい情報収集・情報交換の場となった。

研修内容は、本指導者協議会総会の後、向山真悟先生の「海外研修派遣事業に参加して」、藤原篤先生の「バルセロナオリンピックを視察して」、相沢功先生の「気功法」という順に講演・実技が行われた。

講演は、二人とも海外研修・派遣先の状況等、スライドを中心に説明して下さったが、そのスライドから普段テレビや雑誌

では見る機会がない海外の町並み、遺跡、スポーツ施設、そして、そこに住む人々の暮らしぶりや、スポーツに対する意識が多少なりとも見受けられることができた。中でもバルセロナオリンピックのスタジアム・各競技施設は、建築家アントニオガウディに代表される数々の芸術的建造物と相対え、今後のバルセロナの都市空間を構築していくすばらしい施設だと思った。

実技は、「気功法」について相沢先生より指導を受けた。「気功」の「気」は、目には見えない「天・地・人・他すべてのものを満たす宇宙的エネルギーであり、それを体内に取り入れる「気功法」は奥深いものがある。私自身その科学では説明できない「気」の力を体験し、共感を覚えるとともに決してその力を否定することはできなかった。

以上、研修会は、内容がとても充実していたため、時のたつのも忘れ終了時間を迎えることになったが、先に述べたように情報収集・情報交換のよい機会を得ることができた。これからもいろいろな立場でスポーツに接していくと思うが、少しでも今回の研修で得たものを役立てていければ幸いである。

生涯体育を目指す バドミントンクラブ 「エンドレス」

B級スポーツ指導員（バドミントン）

功刀 時雄

毎週一回火曜日、午後八時から、韮崎市穂坂町にある峡北地区勤労青年センターで練習している。このクラブの結成は昭和六十年で、毎年バドミントン教室として、私の指導を受けた人たちのクラブである。その間、転勤、結婚、育児等で何人かの出入りはあったが、現在メンバーは、二十歳代から五十歳代までの一般男子、壮年男子、一般女子、家庭婦人で、現在十五名いる。社会人なので全員が練習にそろうことはまれで、十二名から十三名集まる。対外試合に出場することの少ないクラブだが、県の主催する青少年スポーツフェスティバルには毎年出場して、二位か三位の好成績を得ている。昭和六十二年九月には、スポーツ活動の顕著さが認められ労働大臣表彰を受け、メンバーの私ともども大いに気を良くして練習に励んでいる。

平成五年五月に、メンバーの増員を計ろうと募集したところ十三名の男女が応募してくれた。たまたま地域スポーツ、クラブ助成事業の指定を受けることができ、この十三人を対象に先輩たちとは別に、基本からゲームまでを目標に一日二時間、六十一日行うことにした。

メンバーは男子八名、女子五名で、勤務等の都合で二、三日で一人くらの欠席者はあったが、大体一〇〇%の出席で活動をしている。最初戸惑っていた人も中頃から馴れて、大いに興味を持って参加してくれ、最初の目標通り、基本、試合のルール用語等のすべてをマスターしてくれた。最終日の反省会では、十三名全員がクラブに残り続けることになり、私としても大いに気よくしているところである。

平成五年度からエンドレスも、峡北バドミントン連盟に加入して、六月から十月までのリーグ戦、各種個人戦にも参加しているので、新入会員も大いに戦力になってくれるよう期待しながら今後も指導して行きたい。

私が指導の中で気をつけていきたいこと、また、もっともっていききたいことは、今指導しているのは社会体育であり、長く

続けること、人との和を作り、スポーツの楽しさ、そして体力維持だと思う。スポーツ障害を生じないよう基本はしっかり身につけて、スポーツの楽しさ、素晴らしさを明日の活力にしたいものである。

また私の願いは今行っている人たちの子供のことで、親のスポーツに興味を持って、小学校高学年くらいから中学校、高校でみっちり技をつけ大学卒業後、学校体育なり社会体育でバドミントン競技に貢献して戴くことである。社会体育は年齢層も幅広く個性も異なる人の集まりであるので、それぞれの体力、個性に応じて指導していくことが要求される。自分も怠ることなく研修を重ねなければと自覚する次第である。

平成六年五月から希望者を募りバドミントン人口を増やしていこうと思う。また、これからも自分の体力の続くかぎり、そして、私を必要としてくださいるかぎり頑張っていこうと思っています。

皆様方の御指導、御鞭達をお願いいたします。

地域のスポーツ クラブの振興を

スポーツプログラマー(バスケットボール)

向山 真悟

牧丘バスケットボールクラブは、学校のOBや近隣の同好の有志から形成された自然発生的なクラブである。

牧丘B&G海岸センターがオープンする以前は、近隣市町村の体育館を借用しクラブを継続してきたが、活動拠点としてのB&Gが定期的に確保できるようになったことは非常にありがたかった。

クラブの参加者には高い競技成績や技術向上を目的とする人もいれば、人との交際の楽しみを目的としている人もいるので、クラブ運営では、個別の目的を集団の目的に統合し、集団目的を達成することが重要になる。共通の目的形成には、リーダーの組織マネジメント能力、特にリーダーシップや民主的なクラブ運営が求められるので、ミーティングや親睦会でメンバー相互の考え方や期待を理解し合うコミュニケーションの場を多く設け、クラブ内での役割りを

持ったり意志決定への参加的なマネジメントは自己の存在の確認の場となり、われわれの意識や協働意欲の支えとなるよう心掛けてきた。地域のスポーツクラブはいくつかのタイプに分類できるが、その活動目的によって、競技的・レクリエーション的・トレーニング的クラブに分類される。

活動の目標を勝利や競技会に求める競技的クラブは、活動の目的が明確であるため共通の目標をもたせ易く、目標を提供するだけでも活動が活発になることがある。しかし、競技への志向が強くなりすぎると技術レベルの相違が練習や試合に対する考え方の差異を生み、人間関係を悪くさせたり、健康や日常生活の問題を生むことも少なくない。

そこで、スポーツの楽しみ自体や社交にねらいがあるレクリエーション的なクラブと、健康や体力維持向上を目的としたトレーニング的なクラブにして行くことにしたが、共通目的が設定しにくく、活動が低調になることがあるため、競技志向にしてしまう恐れもある。運営面では具体的な共通目標を設定する努力や、活動成果を確認するための工夫などをしてきた。地域スポーツ事業対象クラブに指定され、指導者自身

が試行錯誤しながら勉強する機会に恵まれたことに感謝し、今後も生涯スポーツ、また、地域スポーツの振興のために努力して行きたい。

卓球クラブ 鳳凰会

私達のクラブ名は、旧甲府二高の校章よりいただき、卓球部出の女性を中心に十五年前発足し、今は昼勤めをし、運動好きの仲間が木・金曜夜、練習している。

チーム内にC級取得者（小林之子、京島まき子、土屋麻子）の四名が先に立ち、四名の部員がストレッチ、基本練習で各自の力を強化し、後半試合で集中力を養い、レディース全国大会、関東大会に出場し、県外チームと親善試合も年数回実施して楽しんでる。

（C級スポーツ指導員 望月み紀恵）



東花輪第三自治会

卓球愛好会

私たちの卓球愛好会は、昨年の十一月、自治会の愛好者を募り発足いたしました。

発足の理由は、毎年行われる町の球技大会において一夜づけの練習だけで大会に臨み、悲しいかな、一回戦ないし二回戦で敗れ去り、無念の涙をのんでいました。つくづく練習ができないことに、悔しい思いをして参りました。ところが、柔道・空手道場「行徳館」(館長 若尾茂男)が竣工となり、快く練習場として開放して頂きました。

毎月第二、第四土曜日を練習日に指定し、全員、町内対抗で「優勝」という悲願に向け、汗を流しています。創部してまだ日も浅く、対外試合も経験はありませんが、とりあえず基本技術を徹底して習得し、事業所対抗への出場も果たしたいと考えています。試合で勝つことはもちろんですが、同じ地域の人が卓球をとおし、思いやりの心を持ち、より良い地域づくりができればと考えています。他の地域に卓球同好会が結成されているところがあれば、是非お手合

せを願いたいと思います。

今後ともよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

連絡先 ○五五二(七三)七六七六

会長 鱒川 保仁

(B級コーチ 若尾 重広)



平成五年度事業報告

○4月20日(日) 第1回理事会

緑が丘スポーツ公園にて開催

○5月17日(日) 総会

研修会 講師 向山 真吾 先生

藤原 篤 先生

相沢 功 先生

勤労青年センターにて開催

○7月3日(土)～4日(日)

全国スポーツ指導者連絡会議

関東ブロック会議

埼玉県飯能市にて開催

○12月9日(木)～10日(金)

全国スポーツ指導者連絡会議

東京都岸記念体育館にて開催

○2月10日(木) 第2回理事会

緑が丘スポーツ公園にて開催

平成5年度収支決算見込

収入の部

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 額 | | | 収入済額 | 増△減額 | 説 明 |
|-------|---------|--------------|---------|---------|--------|-------------------|
| | 当 初 | 補正流用 増△減額 | 計 | | | |
| 補 助 金 | 100,000 | | 100,000 | 100,000 | 0 | 財県体育協会より |
| 会 費 | 240,000 | | 240,000 | 262,000 | 22,000 | 2,000×131=262,000 |
| 雑 収 入 | 1,000 | | 1,000 | 693 | △307 | 預金利息 |
| 繰 越 金 | 320,086 | | 320,086 | 320,086 | 0 | 平成4年繰越金 |
| 合 計 | 661,086 | | 661,086 | 682,779 | 21,693 | |

支出の部

(単位：円)

| 科 目 | 予 算 額 | | | 支出済額 | 残 額 | 説 明 |
|---------|---------|--------------|---------|---------|---------|-------------|
| | 当 初 | 補正流用 増△減額 | 計 | | | |
| 報 償 費 | | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 0 | コンピューター作業謝礼 |
| 旅 費 | 210,000 | | 210,000 | 115,804 | 94,196 | 役員旅費 |
| 交 際 費 | 20,000 | | 20,000 | 0 | 20,000 | |
| 消 耗 品 費 | 21,086 | | 21,086 | 0 | 21,086 | |
| 食 料 費 | 40,000 | | 40,000 | 27,500 | 12,500 | 会議食事代 |
| 印 刷 製 本 | 200,000 | | 200,000 | 148,320 | 51,680 | 名簿・会報印刷 |
| 役 務 費 | 170,000 | △20,000 | 150,000 | 144,173 | 5,827 | 名簿・会報郵送代 |
| 合 計 | 661,086 | 0 | 661,086 | 455,797 | 205,289 | |

収入済額 682,779円
 支出済額 455,797円
 差引残高 226,982円

お知らせ

○平成六年度日本体育協会公認

C級スポーツ指導員養成講習会

本年度は、水泳・サッカー・ソフトテニスの三競技において実施される予定であります。現在、公認C級スポーツ指導員かトレーナーの有資格者は、共通科目40時間が免除となりますので、専門科目の40時間を受講することにより希望する競技の資格を取得することができます。

○平成六年度日本体育協会公認

C級スポーツ指導員資格移行講習会

財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者組織の継続的な活動促進と新資格付与制度の有効的な受入態勢の確保を目的とし、財団法人日本体育協会が加盟団体との協力により育成・認定した財団法人日本体育協会公認スポーツ指導員の新資格移行暫定措置として開催する。

開催期日 平成6年6月26日(日)

○平成六年度日本体育協会公認

スポーツ指導者海外派遣事業

全国で活躍するスポーツ指導者の資質と指導力の向上、活動促進ならびに指導体制確立一環として、平成六年十月下旬から三週間程度、ヨーロッパ三か国を訪れスポーツ組織の実態とその指導方法、活動プログラムの調査・体験を中心に研修を行う。参加資格、27才以上の有資格者、派遣経費、個人負担30万円程度(派遣人数は、全国で10名)

○地域スポーツクラブ助成事業

国民のスポーツ振興を図る一環として、地域におけるスポーツクラブの指導者の活動費の一部を助成し、地域住民のスポーツ活動の活発化を図ることを目的とする。助成対象者は、有資格者、助成金額、24万円、助成期間、六月～翌年二月。

スキー 〒401-03

南都留郡河口湖町船津3313-4

山梨県スキー連盟事務局長

松浦信幸宛

水泳 〒400-106

南巨摩郡増穂町最勝寺589

山梨県水泳連盟普及委員長

小林賢二宛

テニス 〒400

甲府市国母4-1-2

山梨県テニス協会普及委員長

小野嘉一郎宛

詳しい問い合わせは、山梨県スポーツ指導者協議会事務局まで。

〒400

甲府市緑が丘2-8-2

(財)山梨県体育協会内

山梨県スポーツ指導者協議会

☎0552-53-1906

